

## はじめに

### ■ 本書の執筆目的

本書の目的は、題名『英語のしくみと教え方——こころ・ことば・学びの理論をもとにして』に端的に表現されています。それは、「こころ・ことば・学びの理論」に基づき、できる限り具体的で分かりやすい記述をとおして、英語のしくみとその教え方について読者に提案することです。

日本の英語教育において、これまでは、とすると、教科専門（言語学や英語学）と教科教育（英語科教育法）との間に大きな溝がありました。しかしながら、こころ・ことば・学びの理論に基づかない外国語の指導は益が少ないと私たちは考えます。そのため、教科専門と教科教育を融合した「教科学」の立場から、英語の教え方を考察するアプローチを採用しようと試みました。

そのような考えを基に、本書は、英語の教え方に関心を持つ、小学校、中学校、高等学校、高専、そして大学等の教員の方々に一読していただきたく、9名の執筆陣が鋭意努力し書き下ろしたものです。また、大学や大学院での英語科教育法等の講義を受講する学生・院生の方々にも十分活用いただけるものと確信しております。

### ■ 本書成立の経緯

本書は、中部地区英語教育学会の課題別研究プロジェクト「言語・認知・学習理論を基盤とした英語指導の新しい展開」（2018年度—2020年度、代表：今井隆夫）での共同研究を進展させた成果として誕生したものです。この課題別研究プロジェクトのメンバーから、執筆への希望を募り、希望者が個別の章を担当することで本書が完成しました。

その中部地区英語教育学会課題別研究プロジェクトについて、言及し

# 目次

はじめに i

## CHAPTER 1

コアを活用した多義語指導の理論と指導法.....1

藤井数馬

### I 理論的背景

基本語力の重要性 1

訳語学習の問題点 3

コア理論 5

### II 実践の展開

コアを有効に活用するための前提 12

「なるほど、そうか」を実感させる指導案 13

「そういえば、あれもそうだ」を実感させる指導案 19

## CHAPTER 2

動詞の3区分の知識とその指導法..... 25

大瀧綾乃

### I 理論的背景

動詞の3区分と文の構造 26

文の主語の特徴 29

### II 実践の展開

指導の対象 34

指導のポイント 34

指導の方法 35

指導 Stage 1：他動詞と自動詞／動詞の下位区分を中心に指導する 36

指導 Stage 2：英語の動詞を使った文の構造の説明を中心に指導する 41

指導 Stage 3：主語名詞句の有生性を中心に指導する 44

## CHAPTER 3

### 派生接辞の特徴とその指導法 ..... 51

田村知子

#### I 理論的背景

形態素 52

語構造 52

接辞の種類 53

日英語の派生語の構造と派生接辞 55

接辞の規則性 56

習得困難度順序 57

#### II 実践の展開：派生接辞の段階別指導案

中学校低学年段階 60

中学校高学年段階 62

高等学校段階 65

大学（一般教養課程）段階 69

## CHAPTER 4

### 英語代名詞の特徴とその指導法 ..... 75

白畑知彦

#### I 理論的背景

日英語の人称代名詞の概要 77

He は誰か？ 81

代名詞と再帰代名詞の関係 81

人称代名詞 it 82

同一名詞句の繰り返し 84

総称用法の we、you、they 85

One の用法 86

#### II 実践の展開

指導 Stage 1 (小学生用)	88
指導 Stage 2 (中学生用)	90
指導 Stage 3 (中学校高学年から高校生用)	91

## CHAPTER 5

### 学習者の認知能力を活性化する過去形の有機的な指導法 ..... 97

今井隆夫

#### I 理論的背景

仮定法を過去形の1つの用法として捉える	99
形と意味の記号関係	100
形と意味の記号関係(過去形の場合)	101
過去形の1つの用法としての仮定法の指導法	103
文法の明示的説明は学習者に考えさせるスタイルであるべき	106

#### II 実践の展開：大学のコミュニケーション英語での活用例

導入(クイズ形式で考えさせる)	107
確認と練習	109
自分の文を作る練習	113

## CHAPTER 6

### 時を表す前置詞 AT・IN・ON のイメージ指導法 ..... 117

中川右也

#### I 理論的背景

前置詞の特徴と日本人英語学習者が習得困難に陥る3つの要因	117
母語である日本語には前置詞に相当するものが存在しないこと	118
日本語訳に合わない場合もあること	120
比喩的に意味が拡がること	123

#### II 実践の展開

時を表す前置詞指導の案	126
実践例1(説明中心型授業用)	127
実践例2(活動中心型授業用)	133



## CHAPTER 7

### アニメーションを利用した文法指導法

—与格交替(第3文型と第4文型の書き換え)を例に一.....	143
	近藤泰城

#### I 理論的背景

アニメーションの教育利用への変遷 144

二重目的語構文と与格構文 145

to と for の選択 147

#### II 実践の展開

与格交替を例にとって 149

アニメーションの設定方法 156

## CHAPTER 8

### 用法基盤モデルと CLIL に基づく英語の指導

—英米文学教材を題材にして一.....	161
	柏木賀津子

#### I 理論的背景

英語の4技能5領域 162

用法基盤モデル(UBM) 163

内容の豊かさと文法を繋ぐ CLIL 168

小・中学校英語教育における英米文学の活用 169

#### II 実践の展開

英米文学を取り入れた英語指導 173

指導 Stage 1 『ハリー・ポッターと賢者の石』 174

指導 Stage 2 『ガリバー旅行記』 177

# CHAPTER 9

## 第二言語の発達における行為の役割と

学習環境としての「課題」..... 189

松村昌紀

### I 理論的背景

複雑で適応的なシステム 190

行為を通じた認知 191

言語知識の身体的基盤 192

第二言語習得における行為と適応 195

第二言語教育の転換 198

言語学習環境としての学習課題—二重の媒介 200

### II 実践の展開

課題の選択 202

導入段階 203

初級 205

中級 207

上級 208

索引 214

## CHAPTER 1

# コアを活用した多義語指導の理論と指導法

藤井数馬

### ＼困っているのは、こんなこと／

基本単語なのに、なかなか覚えられない生徒がいます。さらに学習が進むと、複数の意味を持つ多義語も登場してきて、頭の中が混乱状態になる生徒も…。ここでは、英語の多義語を「なるほど、そうだったのか!」と、効果的に身に付けられる教え方について考えていきましょう。



## はじめに

本章では、基本動詞や前置詞に代表される多義語の指導に際し、語の中心義であるコア (core meaning) を活用した指導を紹介します。本章の理論編では、基本語力の重要性和訳語学習の問題点を指摘した後、コアとは何か、その特徴を簡潔に紹介します。続く実践編では、コアやコア図式 (core schema) の有用性を生かすための指導案をいくつか提案します。

## Ⅰ 理論的背景

### ● 基本語力の重要性

英語運用力を高めるために、語彙力の育成が非常に重要な役割を果たすことは、これまで多くの研究者によって主張されてきました<sup>1</sup>。数多く

<sup>1</sup> たとえば、田中 (2011) や Nation (2013) によって主張されています。

## CHAPTER 2

# 動詞の 3 区分の知識とその指導法

大瀧綾乃

### ＼困っているのは、こんなこと／

授業で、A traffic accident was happened last night. と、自動詞の happen を受動態にして発話する生徒がかなりいます。また、I enjoyed very much yesterday. のように、他動詞なのに目的語を落としてしまう発話もあります。動詞には、自動詞、他動詞、自他両用動詞があることを、生徒たちにわかりやすく説明する方法を考えていきましょう。



### はじめに

動詞は、文の構造と意味との関係を作る文の中心となる要素で、主語や目的語と共に文の基本的な構造を作ります。したがって動詞の用法は、英語を学習するにあたり最も重要な文法項目の中の1つであると言えます。

英語の動詞は、他動詞、自動詞、自他両用動詞（自動詞、他動詞両方の用法で使われる動詞）の3区分に分かれますが、英語を学ぶ日本語母語学習者は(1)に示すように、他動詞と自動詞を混同することがよく観察されます。(1a) \*I enjoyed very much<sup>1</sup>. では他動詞 enjoy を誤って自動詞と混同したため、他動詞が必要とする目的語が動詞の後ろにありません。(1b) と (1c) では、自動詞 happen と appear を誤って他動詞と混同

<sup>1</sup> \* (アスタリスク) は、その文が文法的に誤りであることを示します。

## CHAPTER 3

# 派生接辞の特徴とその指導法

田村知子

### ＼困っているのは、こんなこと／

基本単語なのに、なかなか覚えられない生徒がいます。また単語はたくさん知っているほうが役に立つわけですが、覚えるのに苦勞しますね。そこで、派生語の知識を生かした教え方について提案したいと思います。派生語とは、unhappy や player のように、派生接辞が付いた語を指します。語彙の多くは派生語であるため、派生接辞を指導することによって、生徒の語彙をより効率的に増やすことができると考えられるからです。



### はじめに

本章では、最初に英語と日本語の派生語 (derived word) と派生接辞 (derivational affix) の特徴を簡潔に説明します。次に、英語の派生接辞をどのように指導していけばよいか、上記の知識に基づき、中・高・大の段階別指導法を提案します。派生接辞とは、たとえば un- や -er などのように、語に付いて意味や品詞を変える接辞のことです。派生語とは、unhappy や player のように、派生接辞が付いた語を指します。これらの基礎知識を教師が持つことは、生徒に語彙を指導する上で必要です。語彙の多くは派生語であるため、派生接辞を指導することによって、生徒の語彙をより効率的に増やすことができると考えられるからです。

## CHAPTER 4

# 英語代名詞の特徴とその指導法

白畑知彦

### ＼困っているのは、こんなこと／

テストの採点をしていると、Paul loved his mother. を「ポールは彼の母親を愛していた」と訳した答案。まあ、それほど悪くはないけれど、やはりちょっとヘンな日本語。John said that he ate sushi. も「ジョンは彼が寿司を食べたと言った」と訳すのもヘン。ここでは英語と日本語の代名詞の違いについて、そして教え方の工夫について考えていきましょう。



### はじめに

本章では英語の代名詞 (pronoun) の指導法について考察していきます。代名詞は、読んで字のごとく、「名詞の代わりをすることば」です。英語は一度出てきた名詞句を繰り返し使用することを嫌う言語です。その代わりに、二度目からは代名詞が頻繁に使われるようになり、英語を使用する上で重要な働きをします。例を1つ見てみましょう。

- (1) a. I came across Ken at the railroad station yesterday. He said that he was going to watch a movie with his friends.
- b. <sup>??</sup>I came across Ken at the railroad station yesterday. Ken said that Ken was going to watch a movie with Ken's friends.  
(昨日、電車の駅で偶然にケンに会った。友だちと映画を見に行くのだと言っていた)

## CHAPTER 5

# 学習者の認知能力を活性化する 過去形の有機的な指導法

今井隆夫

### ＼困っているのは、こんなこと／

これからは中学校で仮定法過去形を教えることになります。しかし、過去の事を表す用法や丁寧さを表す用法と、仮定法の用法がごちゃごちゃになって、生徒たちが混乱する可能性も出てきます。さらに、「外国語で授業を行うことを基本とする」ことが導入され、では、どのように授業展開すればよいのか迷われている先生方もいるはずで。一緒に考えていきましょう。



### はじめに

文法指導が必要かどうかという議論がされる場合、それは、文法＝「学校文法」と学校英語で教えられている既存の文法を前提としての議論の場合が多いですが、果たして、既存の学校文法は、学習英文法として適切な文法なのでしょうか？筆者は、英語教育の研究や実践で文法指導を考える場合には、どのような文法を教えるのが学習者に役立つかという観点からの検討、つまり、学習英文法の理想的な形について考えることが、文法指導の必要性や効果を考える前に必要であると考えています。

この点に関して、英語教育を哲学的に研究している柳瀬陽介氏は「学習英文法を設計する際には、分析者の視点でなく学習者の視点から

## CHAPTER 6

# 時を表す前置詞 AT・IN・ON の イメージ指導法

中川右也

### ＼困っているのは、こんなこと／

時を表す前置詞は中学で習う基本的な文法項目ですが、高校生でもまだ上手く使えない生徒が意外に多くいます。どうして前置詞が苦手なのかその要因を考えてみましょう。そして、アクティブラーニング型授業を取り入れ、生徒たちみんなが理解できる前置詞の教え方を提案したいと思います。



### はじめに

本章では、まず英語の前置詞 (preposition) の特徴と日本人英語学習者が前置詞を苦手とする要因について概観します。その後、時を表す前置詞 at・in・on に焦点を当て、理論言語学の1つである認知言語学の知見に基づき、イメージを使った効果的な学習法を示した上で、その学習法を採り入れた指導法を提案したいと思います。

### I 理論的背景

#### ● 前置詞の特徴と日本人英語学習者が習得困難に陥る3つの要因

前置詞とは、名詞(句)の前に置かれる詞(ことば)のことを言います。複数形のsを付ける名詞、過去形のedを付ける動詞などとは異なり、



## CHAPTER 7

# アニメーションを利用した文法指導法

—与格交替(第3文型と第4文型の書き換え)を例に—

近藤泰城

### ＼困っているのは、こんなこと／

最近、学校がICT整備をしたため、電子黒板やタブレットPCを使った授業を積極的に導入していただきますと言われます。しかし、いざ英語の授業で実践しようとするとき、デジタル教科書以外に思い浮かばない方もいるかもしれません。効果的にICTを使える具体的な場面ってどんなときなのでしょう。



### はじめに

本章では、英語の文法指導でアニメーションが効果的な役割を果たすことを訴えたいと思います。アニメーションの効果を例示するために、ここでは二重目的語構文と与格構文の書き換えの際の to と for の選択についての指導を例に出します。二重目的語構文とは、Yui gave Haruto a present. のように目的語が2つある構文のことなのは承知の事実かもしれませんが、与格構文とは Yui gave a present to Haruto. のような構造の文を指す用語です。

二重目的語構文は、学校文法では第4文型(SVOO)に属します。学校の英語教育では、二重目的語構文を to や for を用いて与格構文に書き換えることを指導しますが、この時、前置詞の選択で to か for のどちらを選ぶかの理解が学習者にとっては難しくなります。そこで、本章では認知言語学の知見を説明の際に活用し、それをアニメーションで見せることを提案し

---

## CHAPTER 8

# 用法基盤モデルと CLIL に基づく英語の指導

—英米文学教材を題材にして—

柏木賀津子

### ＼困っているのは、こんなこと／

さまざまな英語活動を交えながら、ストーリー性のある内容豊かな物語を英語で読んでもらうのはとても難しいことです。ひとまとまりの物語を読むことによって、使える英語表現を身に付け、文法知識も得られる方法を提案します。



---

### はじめに

---

本章では、筆者が実践を試みた「内容（英米文学の活用）と切り離さない文法指導」に基づいて、理論と実践を繋いだ英語の指導法を紹介したいと思います。本章の構成として、「I 理論的背景」では、ひとまとまりのフレーズの蓄積から、フレーズ内の部分入れ替えをする経験を通して、文構造に気づいていく「用法基盤モデル（Usage-based Model：UBM）」の考え方を紹介し、次に、内容と文構造を切り離さず重ねて学ぶ「内容言語統合型学習（CLIL）」の指導法を紹介します。そして、この2つが英語の指導にどのように関連付けられるかについて考察します。

「II 実践の展開」では、中学校における英米文学（英語の絵本を含む）の取り扱いの意義をまとめます。そこでは、英米文学に慣れ親しむ活動において、UBMの視点から文構造を見つけていくような言語活動例、ストーリー・プロットや、原因と結果を考える言語活動例（CLILでの思

---

## CHAPTER 9

# 第二言語の発達における行為の役割 と学習環境としての「課題」

松村昌紀

### ＼困っているのは、こんなこと／

生徒や学生たちが覚えた文法の知識を活用することができず、英語を使いこなせないことがあるかもしれません。そうした指導と学習のプロセスに足りないものは何なのでしょう。この章では教室で用いられる課題を学習者にとっての環境の一部と位置づけ、「探索」と「行為」をキーワードにしてそのような状況を乗り越えるための方法を考えていきます。



---

### はじめに

---

言うまでもなく、言語は私たちが生きている環境の中で、日々の経験を通して学ばれていくものです。その発達を促す環境の条件がどのようなものか（そしてどのような環境がそれを阻害するのか）ということは、母語と第二言語のそれぞれについて心理、言語、社会的な観点から考えられてきました。母語の習得に関しては、養育者から乳幼児への語りかけ（child-directed speech）に見られる音声的・構造的な特徴、効果的に発話を促す支援的な働きかけのあり方、さらに子どもと養育者の社会的相互作用における愛着関係の役割などに関する研究があります。特に発達を促進するための支援の方法は第二言語習得の文脈でも関心を持たれ、相互理解に何らかの困難が生じたときにそれを乗り越えるために行われるやり取りの重要性や、言語形式上の誤りに学習者の注意を向けていくこと